

第15回クリーンセンター滋賀環境監視委員会会議概要

1. 日時平成21年8月4日(火)14:00~16:00
2. 開催場所 クリーンセンター滋賀 研修室
3. 出席者 環境監視委員
学識経験者:金谷委員長
住民代表:中島茂委員、中島常浩委員、東委員
中邨委員、中島仁史委員
事業者:坂本委員、岩倉委員
滋賀県:森井委員
甲賀市:富田委員(代理出席)、伊東委員、橋本委員(代理出席)
環境事業公社:對中委員
事務局:財団法人滋賀県環境事業公社
(廣田副理事長、對中事務局長、田中所長、
成宮次長、尼子主査、西村主任技師)



4. 議事概要

- (1). あいさつ(公社 副理事長)
- (2). 活動内容報告

1) 環境影響評価事後調査結果について 資料1

<平成20年度 動植物調査結果>

- ・両生類:移植した7種の両生類のうち、カスミサンショウウオ、イモリ、タゴガエル、ヤマアカガエル、モリアオガエルの5種を確認した。
- ・陸上昆虫(ゲンジボタル):移植した箇所周辺(付替え区間上流の次郎九郎川)での生息が継続して確認できた。さらに、施設の下流では多数が乱舞する姿もみられたほか、底生動物として幼虫も多く確認された。
- ・魚類全般:カワムツ、ドンコ、カワヨシノボリの生息が継続して確認された。
- ・ギンブナ:平成20年4月に仮移植地である旧処分場の車両洗浄槽からの移植を行なった。その半年後、移植後の生息状況調査を実施したところ、調査日においては個体を確認できなかった。
- ・底生動物全般(水中に生息する昆虫、エビ・カニ類、貝類など):確認された底生動物を汚濁指数で解析し、汚濁指数の経年変化をみると工事中は、一時的に汚濁指数の上昇(水質悪化)が認められたものの、現在は回復傾向であり、供用後についても底生動物への影響は軽微であることが確認された。
- ・付着藻類全般(川底の石などに付着している藻類):確認された付着藻類を識別珪藻群法の汚濁指数で解析し、汚濁指数の経年変化をみると工事中は、一時的に汚濁指数の上昇(水質悪化)が認められたものの、その後は回復傾向であり、供用後についても付着藻類への影響は軽微であることが確認された。
- ・エビネ:移植したエビネは、芽生えや開花が継続してみられるなど、順調な生育が確認できた。

2) 搬入実績報告について 資料2

・平成20年10月30日~平成21年7月31日までの搬入実績

搬入事業者数 140事業者 契約事業者数 165事業者(契約事業者の内85%が搬入)

搬入台数 3,253台(月平均360台、日平均20台)

搬入重量 29,285 t (安定型物4%、管理型物72%、残土等廃棄物以外24%)



3)埋立造成管理について 資料3

・毎月末に作成している造成管理図(着色部分が廃棄物が埋立された部分)について説明

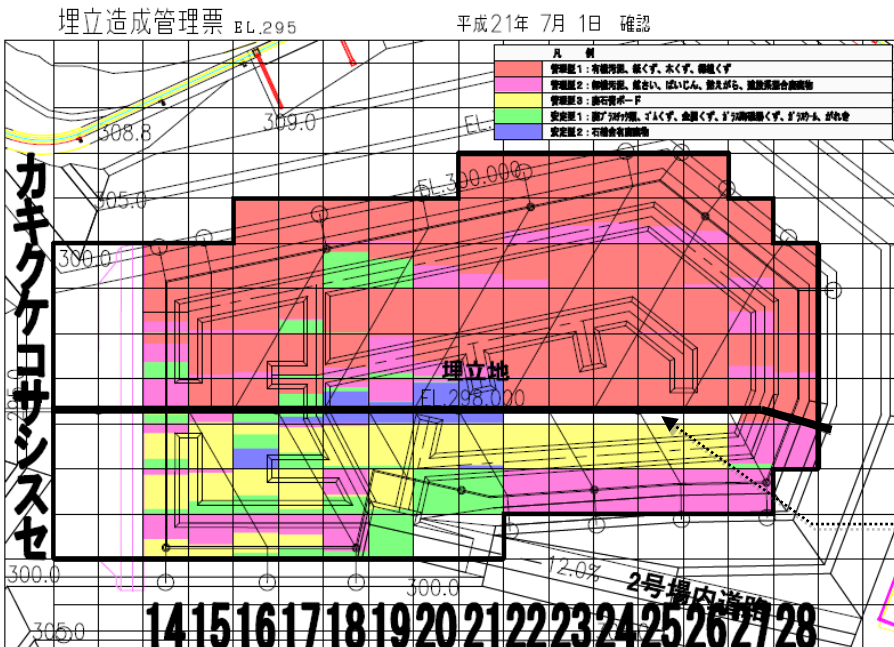
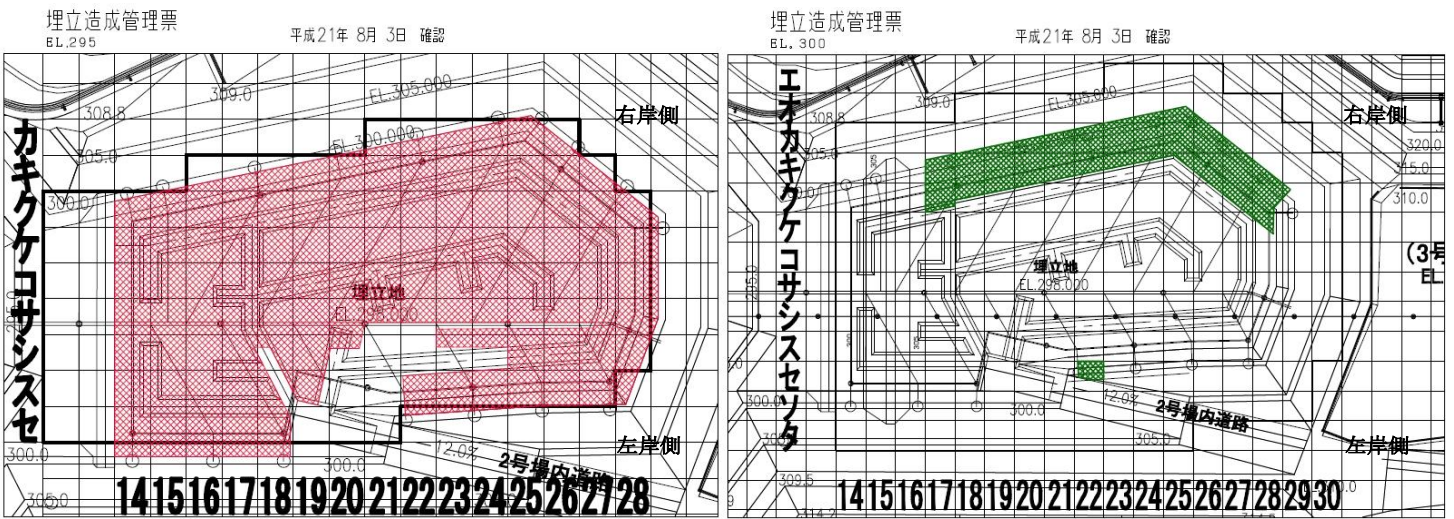
EL295(標高 298.5~300 m)の造成管理について

面積約 1ha の内、約 90%が埋立完了している(8/3 現在)。

EL300(標高 300~305 m)の造成管理について

現在は 300~301.5 m 程度を埋立中で 20%程度埋立完了している。

下図中、座標のサの位置に浸出水集排水管が敷設されており、それを境に右岸側に有機系の廃棄物、集排水管のすぐ横に石綿含有廃棄物、左岸に廃石膏ボードおよび無機系の廃棄物を埋立している。法面にはシート保護のために廃置を敷いている。1 段目の白い部分はまだ埋まっていない部分。二段目は有機系廃棄物がまだないので右岸に建設系混合廃棄物を中心に埋立している。



中心部の浸出水集排水管を境に右岸側に有機系の廃棄物(赤)、集排水管のすぐ横に石綿含有廃棄物(青)、左岸に廃石膏ボード(黄)、無機系の廃棄物(ピンク)全体的に安定型物(緑)を埋立している様子を説明。

中心部の浸出水集排水管
(埋立面の底面に敷設)

4)環境影響評価事後調査の状況確認について(現地調査)

代替池および両生類移植地(ため池、池 1,2,3,4)およびエビネ移植地 1 の現地調査を実施。



【主な意見および質疑1】

<環境影響評価事後調査報告について>

・事後調査をすることは条例で定められているのか。また、事後調査の内容については、どこまでが事業者の裁量でなされるのか、縦覧用報告書(案)は誰が(案)を取って良いと判断するのか。県がOKというのか。公社の事業者責任で行うのか。当該委員会が承認する場ではないですね？

→事後調査をすることは条例で定められています。内容については事業者の責任で決定するものですが、県と協議を行い、問題ないと判断されれば、県の広報に縦覧公告が掲載され、縦覧するという手順になっています。今回は、県と協議する前に環境監視委員の皆さまからもご意見を伺いたいということです。

・事後調査の費用は年間どれくらいかかるのか？

→動植物調査で約300万円、水質調査で約600万円くらいです。

・動植物調査については、処分場を閉鎖するまで行う調査とある一定条件を満たせば止める調査があると思うが、その基準はあるのか？

→アセスの事後調査計画書に基づき調査を行い、その都度、調査結果とアセス時の予測を比較し、事業者責任で判断することとなります。

・当該施設の1番の問題は水質である。最新データの資料を添付すべきである。

→今回は、平成20年度の事後調査結果の報告に重点を置いたためです。次回からは最新データを報告します。

・ホームページでの情報公開について、データはどのように公開しているのか？

→調査結果の一覧表を法定基準値とともに載せています。データに対する考察は載せておりません。

・魚類調査について、川のその調査地点に生息する全ての魚を計測しているのか、報告されている数字の意味は？

→河川での調査は、どういった種類の魚が生息しているかを調査し、安定的に生息しているのかいないかという調査であって、定量的な調査ではありません。報告の数字は調査時に捕獲できた魚の数であり、その水域に生息している全ての魚類の数を表すものではありません。

・生息確認調査のタイミングが悪ければ、確認されないものが出てくる(捕獲数が変化する)という手法は正しいのか？

→生息している魚の絶対数ではなく、種類や割合が劇的に変化していないかどうかを調査しているものですので、問題ないと考えております。

・ギンブナについて、83匹仮移植し、本移植時に40匹と約半数に減少していることの原因は何か？

→旧処分場の狭い地下ピットに生けられていましたので、繁殖などが上手くいかず自然減少したと考えています。

・狭い場所に80匹ものギンブナを入れてしまったということが原因ではないのか？

→当時の経緯について、今すぐにお答えできませんが、80匹という数のギンブナを飼育するには狭かったのではない

かと思われます。

- ・ギンブナの本移植について、ため池が生息環境に適しているか疑問である。どのように場所が選定されたのか？
→経緯を調べ回答いたします。
- ・環境監視委員会では他に重要な事項がたくさんあったとはいえ動植物の保護について十分な説明がないまま来てしまったのではないかと思う。

【主な意見および質疑2】

＜埋立処分実績および埋立造成管理について＞

- ・有機汚泥について、以前に大規模契約をしたというものが、その後もどんどん入っているのか？
→大規模有機汚泥の搬入は1月からの2ヶ月間で終わっております。現在はそれ以外の事業者からの搬入です。
 - ・EL295の造成管理図と廃棄物割合の詳細を示した図で、途中まで埋まったメッシュと全部埋まったメッシュの違いがあるようだが？
→法面の部分については埋め立てしていないので、造成管理図では色を塗っておりませんが、メッシュ毎で廃棄物の割合を示す場合にはそういう表記ができないからです。
 - ・今後は、資料2については、無ければ無いで結構ですので搬入時のトラブル等や管理型4品目の搬入検査の状況なども同時に報告いただきたい。資料3については説明をつけて欲しい。どういう考え方でこのような埋立方法になっているのか、今後どのように埋立管理していくのか示していただきたい。
→わかりました。
 - ・有機系廃棄物は経年変化で体積が減少する右岸にだけ入っているのは全体としての管理はどういう考えか？
→バランスを考えて混合廃棄物等を埋め立てしております。
 - ・計画比較して現状の搬入量は多いのか少ないのか？
→現状は月1,000トンあり、これに大規模処分量が上乗せされるという状況です。
 - ・埋立実容量を計画年数で除した計画量は？
→計画当初は年間67,000トンです。しかし、建設段階では滋賀県の最終処分量は388,000トンでしたが、平成18年、19年度に103,000トンまで落ち込んでいます。今後モリサイクル、ゼロエミッションの取り組みはますます進み、最終処分量が読みにくい段階になっています。現在のところ20,000トンを確認したいと考えていますが、今後の廃棄物の推移は予測できません。また当施設は大規模災害があった時の受け皿としての役割を果たすことができる貴重な施設となっています。
 - ・万が一の大規模災害が起こった際に対応できるのかということをもっとPRしたほうがよい。
→これまでから施設の必要性において説明しているところであり、また、県においても理解と認識をいただいているところでもあります。
 - ・企業は廃棄物を出さないという方向で動いていますよね。
→ISO14001に取り組んでいる事業所からはほとんど廃棄物はありません。また、景気の動向もこういった状態なので設備投資・改築等がなくいっそう廃棄物量が減少しています。
- ### ＜その他＞
- ・施設見学は受け入れているのか？
→積極的に受け入れています。
 - ・施設見学者はどのような人が多いのか？
→行政、事業者、地元、他自治体の方々が来られています。